

令和元年度(平成30年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 09-023

PDCA	事務事業名	公共交通対策事業	部課等名	総務部 防災交通課 交通防犯担当	担当	間瀬勝信	
					内線等	285	
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第4章 安全で快適に住み続けられるまち 節： 第2節 都市基盤の整備 基本施策： 3. 交通体系 単位施策： (5) 公共交通の充実 個別施策： ①路線バスの維持と利用促進					
	根拠法令等	半田市公共交通会議設置要綱					
	対象・目的	少子高齢化や単身世帯増加など、時代背景から予測される移動需要の高まりを見据え、市民のくらしの足の維持確保を目的に地域公共交通を整備する。					
	目的を達成するための手段・活動内容	市民の移動時手段の一つとして、公共交通バスの運行を維持確保する。地区路線バス「ごんくる」3路線の運行と市内乗合事業者の運行する基幹路線バスへの運行経費等補助を実施するとともに、利便性の確保のため、運行に関する環境整備や情報発信を図る。					
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績	28年度	29年度	30年度	単位	
		①補助対象路線数	5	5	5	路線	
		②市民アンケート等ニーズ調査	3,114	2,073	1,319	人	
		③地域における話し合いの場	13	18	10	回	
		事業費	37,146	45,563	83,450	千円	
		人件費	2,730	4,162	5,226	千円	
		総事業費	39,876	49,725	88,676	千円	
		活動単位当たりのコスト	28年度	29年度	30年度	単位	
	①補助対象路線利用者1人当たりにかかる市費投入額	309.6	377.6	327	円/人		
	②半田市民1人当たりにかかる市費投入額	335.9	418.0	698.7	円/人		
	③						
	成 果	成果指標	28年度	29年度	30年度	単位	
		①バス利用者数	実績値	—	—	337,438	人
			目標値	—	—	370,000	
②地区路線の運賃収入		実績値	—	—	3,059	千円	
		目標値	—	—	6,800		
③		実績値					
	目標値						
C 課題の整理	観点別評価	必要性	有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ある
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ある	※対象・手段の変更	
		③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	—
	事業の評価・課題	B					
		平成29年度に策定した「半田市地域公共交通網形成計画」に基づき、地域住民、交通事業者等関係者と議論を重ねバス交通網を再編し、平成30年10月1日から実証運行を開始した。新規に市運営の地区路線バスを3路線導入するとともに、既存民間路線は統廃合に合わせて常滑方面から日本福祉大学までの朝夕時間帯の直通ダイヤを新設した。また、運賃についても片道上限200円とし、バス環境の向上に努めた。					
	A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	拡充推進				
			既存路線については、利用を促進すべく、バスロケーションシステムの導入やインターネット上の民間媒体への情報露出、バス待ち環境の改善を図る。また、交通空白地域では地区ごとの「バス会」設立・運営を支援し、将来的な地区路線Bの導入に繋げる。				
		令和元年度の目標	成果指標			目標値	単位
			①バス利用者数			1,600	人/日